

令和 6 年 4 月 29 日現在

機関番号：32683

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23050

研究課題名（和文）アジア太平洋戦争における慰問雑誌の読者に関する総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study on the Reading Acts of Soldiers of Comfort Magazines in the Asian Pacific War

研究代表者

中野 綾子（NAKANO, AYAKO）

明治学院大学・教養教育センター・助教

研究者番号：80764894

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、「将兵という読者」がいかなる読者であったのかを実証的に明らかにし、東アジアにおける文学状況・読書行為の歴史のなかに位置づけることを目的とし、そのために、読者としての将兵のために製作された慰問雑誌に関する調査・分析をおこなってきた。その結果、「兵隊という読者」が、軍部からは具体的に統制すべき読者として、さらに世界へと仮想的に喧伝すべき読者として構想される二面性を持っていたこと、そして銃後においては、地方版ではより具体的に顔を見える読者としての兵士がまなざされていたことを明らかにした。これら複雑な読者としての兵士をめぐる作品内容の分析を今後の課題としたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦時下の読書行為については、これまでその行為自体が総じて困難なものとして語られ、詳細な研究は少ないのが現状である。なかでも、将校や兵士による読書行為については、その傾向が顕著である。敗戦後、占領期の民主化推進の影響を受け、学徒兵の読書行為が戦争に対する「抵抗」として語られていく一方で、そのほかの将校、とくに一般兵たちによる大衆的な読書行為は等閑視されてきたと言える。その点で、本研究はそうした認識に疑義を呈し、将兵によって行われた読書行為を、史料から実証的に調査し、その内実を明らかにする点で意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to empirically clarify what kind of readers the soldiers were, and to place them in the history of the literary situation and reading practices in East Asia. As a result, we were able to clarify that soldiers had two aspects: they were conceived of by the military as readers to be controlled in concrete terms, and as readers who were to be propagated in virtual terms to the opposing country. The analysis of the novels related to the consolations of soldiers as complex readers will be the subject of a future study.

研究分野：近代日本文学

キーワード：日本文学 メディア 出版文化史 読書 慰問雑誌 アジア太平洋戦争 兵隊 軍事援護

### 1. 研究開始当初の背景

将兵の読書行為を明らかにする本研究は、近代文学研究に限らず、他分野の研究分野にもかわる学際的な研究である。たとえば、一ノ瀬俊也『銃後の社会史』(吉川弘文館、2005)における銃後から戦場へ送られた慰問文の研究およびその復刻や新井勝紘「パーソナル・メディアとしての軍事郵便」(『歴史評論』2007)、後藤康行「戦時下における軍事郵便の社会的機能」(『郵政資料館研究紀要2』2011)などのメディアとしての軍事郵便の機能に着目した研究など、書物以外の戦場におけるメディア研究は進んできている。だが、戦場で書物を読むという行為に対しては、思想的分析に終始してしまう傾向があり、文学的見地から中心的に論じたものはない。戦場での読書を立体的に浮かび上がらせる申請者の研究は戦場におけるメディア研究にとって、相互に寄与するものである。近年、読者・読書研究は国外へと視野を広げつつある。岡村敬二による満州での読書の一連の研究や海軍による慰問雑誌の内容を明らかにした押田信子『兵士のアイドル』(旬報社、2016)がある。さらに日比嘉高『ジャパニーズ・アメリカ』(新曜社、2014)では移民による読書が取り上げられ、占領期日米間の書物流通や受容について論じた『越境する書物 変容する読書環境のなかで』(新曜社、2011)において、和田敦彦は書物の移動や場所を問うことで読書や読みの歴史を問うリテラシー史を提唱しており、国内外の読書を考える研究は読書・読者研究の重要なトピックとなってきた。これまで執筆者は、学徒兵を中心とした戦場における読書行為について研究をおこない、成果をあげてきているが、こうした読者・読書研究の拡大のなかで戦場という特殊な場所における読書研究は、まだその実証的な研究が少ないのが現状である。それは資料的な制約と国外での日本文学研究者の共同研究がさほど活性化してこなかったことにある。その点で、本研究のアプローチはそうした研究上の空白を埋めるものとなる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、将兵による読者行為を実証的に明らかにし、東アジアにおける文学状況・読書行為の歴史のなかに位置づけることである。そのために、読者としての将兵のために製作された慰問雑誌に関する調査・分析をおこなう。近代において、知の基盤をなすための文化的営為である読書については、ロジェ・シャルチエをはじめ、折に触れて様々な興味をもって問われてきた。ただし、こと近代文学研究の場においては、前田愛『近代読者の成立』を嚆矢として以降、継続的にその行為の問題が問われてきたとは言い難い。とくに、戦時下の読書行為については、その行為自体が総じて困難なものとして語られ、詳細な研究は少ない。なかでも、将校や兵士による読書行為については、その傾向が顕著である。敗戦後、占領期の民主化推進の影響を受け、学徒兵の読書行為が戦争に対する「抵抗」として語られていく一方で、そのほかの将校、とくに一般兵たちによる大衆的な読書行為は等閑視されてきたと言える。本研究はそうした認識に疑義を呈し、将兵によって行われた読書行為を、史料から実証的に調査し、その内実を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

研究内容は以下に分けられる。

- 1 慰問雑誌等の兵士用書物の流通に関する実証的調査
- 2 慰問雑誌の収集および製作状況の調査
- 3 将兵による慰問雑誌の執筆・受容および作品分析

近代の文学研究では、これまで文学の制作者、すなわち作者や作品の研究に主眼がおかれる傾向が強く、書物の流通やそれを販売するシステム、読書環境の変化の問題はいまだ十分に研究されてはいない。なかでもアジア太平洋戦争下の読書状況に目が向けられることは少ない。そこで、上記の慰問雑誌を中心とする調査・分析から、将兵の読書環境の歴史的な変化を総合的に明らかにする。

#### 4. 研究成果

本研究では、「将兵」という読者を実証的に明らかにし、東アジアにおける文学状況・読者の歴史のなかに位置付けることを目的としてきた。そのために、将兵用に制作・送付された慰問雑誌や将兵用の図書に関する調査・分析をおこなってきた。しかしながら、当初の予定であった中国などの海外における調査活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により、断念せざるを得ず、国内のみで可能な資料の調査収集に切り替えることとなった。

まず、慰問雑誌の調査に関する成果として、大日本雄弁会講談社による『陣中倶楽部』の総目次作成をおこない、その全体像を明らかとした。つぎに、海軍向け慰問雑誌である『戦線文庫』（日本興亜社）の国内における所蔵を確認し、収集調査をおこなった。その結果、前線版・銃後版の二種類の刊行状況をおおよそ明らかにすることができた。さらに、地方の慰問雑誌として、大阪、埼玉、京都、愛媛、神奈川だけではなく、北海道、岩手、堺などの所蔵を確認し、これら各都道府県の軍事援護団体等によって製作された経緯や刊行状況を明らかにした。

つぎに、将兵用の図書に関する調査の成果として、『日本陸軍『各部隊文庫図書目録』 帝国軍隊の読書装置』（金沢文圃閣、2019/11）の推薦文にて、1910年ころの宇都宮、熊谷、佐野連隊など、陸軍内における「文庫図書目録」の位置づけをおこなった。さらに、『山本実彦旧蔵 慶應義塾図書館所蔵 改造社出版関係資料』（2010年2月）に収録される「陸軍恤兵部 陸軍需品本廠 納入書類」や「入金済請求書綴」といった資料から、改造社が陸軍からの依頼によって提供した書籍や出納を調査することで、改造社と陸軍における取引状況を明らかにし、論文として成果を発表した（「一九四〇年代後半における陸軍と出版社の取引-改造社を中心として」、『カルチュラル』 17(1) 59-71 2023年3月）。

さいごに、これら収集雑誌および図書に関する分析として、「『兵隊という読者』の宣伝 雑誌『兵隊』の記事を中心に」（東アジアと同時代日本語文学フォーラム台北大会、2019年10月）において、『兵隊』に掲載された記事や中国文学の翻訳や南支派遣軍報道部内の編集部の状況などを考察する発表をおこなった。それにより、「兵隊という読者」の軍隊報道部における位置づけについて明らかにした。つぎに、昭和文学会第72回研究集会「慰問雑誌の前線／銃後 海軍向け雑誌『戦線文庫』の掲載小説をめぐって」（2023年5月13日）にて、『戦線文庫』に掲載された連載小説の分析成果を発表し、「戦時下の出版文化の変容—地方版慰問雑誌を中心に—」（高麗大学校グローバル日本研究院 特別講演会 2024年3月21日）では、地方版慰問雑誌における編集者の役割について明らかにした。これらの成果からは、「兵隊という読者」が、軍部からは具体的に統制すべき読者として、さらに世界へと仮想的に喧伝すべき読者として構想される二面性を持っていたこと、そして銃後においては、地方版ではより具体的に顔が見える読者としての兵士がまなざされていたことを明らかにした。これら複雑な読者としての兵士をめぐる作品内容の分析を今後の課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中野 綾子	4. 巻 107
2. 論文標題 書評 松本和也著『戦争と文学：言説分析から考える昭和一〇年代の文学場』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 113-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 綾子	4. 巻 17
2. 論文標題 一九四〇年代前半における陸軍と出版社の取引-改造社を中心として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 カルチュラル	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野綾子	4. 巻 14
2. 論文標題 陸軍恤兵部発行『陣中倶楽部』総目次および解題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 27-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野綾子	4. 巻 176
2. 論文標題 読まれぬ書物を文学として語ること 紅野謙介『書物の近代-メディアの文化史』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野綾子	4. 巻 84
2. 論文標題 読書のすすめ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 あんげろす	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 アジア太平洋戦争下における出版社の慰問 改造社を中心に
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 「兵隊という読者」の宣伝 雑誌「兵隊」の記事を中心に
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 兵士たちは何を讀んだか - 読書の歴史を問う研究の可能性
3. 学会等名 第6回 教養教育センター附属研究所 研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 『書物の近代』におけるオブジェとしての書物
3. 学会等名 『書物の近代』からそれぞれの「書物の近代」へ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 新京（長春）における書物体験－新京図書館を中心に
3. 学会等名 国際共同研究シンポジウム「近代日本の中国都市体験（3）－新京（長春）・哈爾浜・青島・上海」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 慰問雑誌の前線／銃後 海軍向け雑誌『戦線文庫』の掲載小説をめぐって
3. 学会等名 昭和文学会第72回研究集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 帰還兵による小説執筆とその流通 画家・小川真吉『隻手に生きる』をめぐって
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム バリ大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野綾子
2. 発表標題 戦時下の出版文化の変容－地方版慰問雑誌を中心に－
3. 学会等名 高麗大学校グローバル日本研究院 特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 金沢文圃閣編集部	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金沢文圃閣編集部	5. 総ページ数 138
3. 書名 日本陸軍『各部隊文庫図書目録』 帝国軍隊の読書装置	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------